

平成 26 年度寒地土木研究所一般公開開催報告

(独) 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム
水産土木チーム

平成 26 年度寒地土木研究所一般公開を 7 月 4 日 (金)・5 日 (土) の 2 日間にわたり開催しました。2 日間とも天候に恵まれ、1,131 名のお客さまにご来場いただきました。毎年恒例となった一般公開ですが、今年も各研究チーム・研究ユニットが工夫を凝らした研究内容の紹介や土木の専門的な技術者の皆さんの質問等にお答えする技術者のための研究説明コーナーを開設し、子供だけでなく大人の皆様にも、それぞれのコーナーで様々な実験・体験・発見を楽しんでいただきました。

寒冷沿岸域チームでは『見て体験して学ぼう私たちの海』をテーマに、色々なブロックで遊ぶコーナー、水槽での実験、低温観測室での実演(サーモグラフィー体験)などを行いました。港などに設置されている消波ブロックのミニチュアで遊ぶコーナーでは、実験で実際に使用しているブロックやクッションタイプのもがあり、見本に習いブロックを積み上げて防波堤を作る体験をしていただき、子供たちに人気の会場となりました。また、波を発生させることのできる小型

水槽での実験では、ブロックの効果が一目でわかるように工夫されており、来場者は感心し、研究所をより身近に感じていただけました。

水産土木チームでは『さわって・見て・学ぼう、北の海の生きものたち』と題して、港内泊地の水質浄化が期待されるホタテ貝殻礁の展示、アサリによる水質浄化の実演を行いました。また、任意波形振動流発生装置により海底の流れを再現し、ナマコなどの生物の動きを観察しました。さらに、ナマコ、ウニ、ホタテ、ホッキガイなど、北海道沿岸に生息する海洋生物を集めたタッチプールを設けました。普段、海の生物に直接接触することが少ない子供達にとって貴重な経験であり、大人気の会場となりました。

来年も多くの皆様のご来場をお待ちしております。



消波ブロックで遊ぶコーナーは子供達に人気



消波ブロックの説明に真剣な小学生



子供たちに海の生き物について説明



ナマコなどに直接接触するブースは子供たちに大人気